

# -九州建設技術交流会だより-

## 会長挨拶

九州建設技術交流会会長

(九州地方整備局企画部長) 清水 亨氏



本日はお忙しい中、平成 21 年度第 2 回九州建設技術交流会にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。この交流会は、昨年 6 月に、産学官による情報交換等を通じて交流・連携を促進して、建設分野における新技術の開発や活用・普及の促進に寄与することを目的に設立されたものでございます。これまでは福岡市で開催してきましたが、九州内の多くの方々に参加して頂きたいとのことで、今回初めて福岡市以外で開催することにいたしました。これからも 2 年に 1 度は福岡県以外の九州各県で順番に行う形での開催を考えております。

今回は参加希望者が 200 人を超えるということで、改めて産学官の技術交流、あるいは新技術に対する皆様方の関心の高さに驚かされたところでございます。8 月に今後 5 年間の九州ブロックの社会資本に関する重点整備方針が策定されましたが、整備だけでなく維持管理・更新といった課題を含めたストック型社会への対応には施設の長寿命化や戦略的にどう更新していくかが重要な課題となり、新技術の研究・開発に負うところが大きいと考えております。これらの技術的な課題を解決するためにも、建設技術の一層の推進に向けてこの会が産学官の交流連携に繋がることを期待しております。

また今回は、福岡市以外での開催ということで準備の段階で地元の長崎大学の高橋先生を始めといたしまして、長崎県建設業協会他、長崎県関係者の皆様方には大変なご協力と御尽力を頂いたということで、改めてこの場を借りまして感謝を申し上げます。

### 《プログラム概要》

H21.9.8

- 挨拶：九州地方整備局企画部長 清水 亨
- 話題提供：
  - ①「地盤環境・地盤工学技術の最近の動向」  
長崎大学工学部教授 棚橋由彦
  - ②「長崎県の近代化遺産とその活用」  
長崎大学工学部教授 岡林隆敏
  - ③「公共土木施設（道路）の維持管理計画について」  
長崎県土木部道路維持課長 田崎敏昭
  - ④「地場建設業の元気回復と人材育成」  
九州建設業協会会長 谷村隆三
- 「地方都市における建設業の役割」  
(副題：技術開発と人材育成) についての意見交換
- 閉会



当日参加者数

180 名

【交流会の開催状況】

～4名の皆様に話題提供していただきました～

### 「地盤環境・地盤工学技術の最近の動向」

長崎大学工学部教授

棚橋 由彦 氏



棚橋氏は、有明海沿岸道路の概要、軟弱地盤対策工法としてセメント系深層混合改良、真空圧密工法、真空載荷盛土工法について話をされました。有明海沿岸道路での軟弱地盤対策工法として、粘性土の最大の利点である圧密による強度増加を活用すべきことや、セメント系深層混合改良工法の課題について言及されました。また、真空圧密工法の理論と特徴の説明や、真空圧密工法の欠点を補う真空載荷盛土工法における施工管理指標の提案がありました。最後に、地盤工学会九州支部地区活動助成金を活用した、長崎地盤研究会での最近の講演例について紹介されました。

### 「長崎県の近代化遺産とその活用」

長崎大学工学部教授

岡林 隆敏 氏



岡林氏は、長崎港改修事業、長崎水道、佐世保の針尾送信所無線塔など長崎県内の近代化遺産について観光への活用や維持管理も含め紹介されました。講演は建設当時の貴重な写真や現在の様子などを交え、建設に至る経緯や課題など非常に興味を引く内容でした。長崎は江戸時代唯一の外国との窓口であり、近代化は外国船入港に備えての港湾整備に始まり、それとともに造船が盛んになり、戦前は国内でも大都市の部類であったようです。最近では、石炭採掘で有名な軍艦島の観光地化や三菱資料館などの世界遺産への申請も行われているようです。

## 「公共土木施設（道路）の維持管理計画について」

長崎県土木部道路維持課長

田崎 敏昭 氏



田崎氏は、長崎県における橋梁、舗装の維持管理計画、道路防災の現状、トンネル点検について紹介されました。橋梁の維持管理では、民間との協働で点検を行い、ボランティアの形で県OBの力も借りて、独自の「橋梁補修・補強マニュアル」に沿った橋梁維持管理システムを構築しているとのこと。舗装の維持管理においては、舗装台帳の他、平成20年度に舗装維持管理システムが構築されています。道路防災事業は策定した道路防災事業計画に基づき今後10年間で集中的な防災対策を進める予定であり、トンネル点検では、学識者を含めた検討委員会による維持管理計画を策定予定だが不確定要素が多く整理する方法を検討している段階とのこと。

## 「地場建設業の元気回復と人材育成」

九州建設業協会会長

谷村 隆三 氏



谷村氏は、昨年度から関わってこられた「建設業と地域の元気回復事業」「建設業人材確保・育成モデル事業」について紹介されました。前者は、国土交通省の予算で建設業のノウハウを生かした地域の活性化と、建設業の再生を図る試行的事業を助成するものであり、104件採択されたうち、長崎県関連は6件もあり、各提案に共通することは建設業の人材、技術、機材が生かされている着眼点が個性的である。他業種との連携や自治体の支援体制があることだそうです。人材確保・育成モデル事業は、建設技術者・技能者を実践的な指導を通じ育成するもので、整備局、県、協会、大学などが関わっているとのこと。「無駄と失敗は大切」、「高い技術も低い技術も必要」、「競争よりも協働」で締め括られました。

## ～「地方都市における建設業の役割」（副題：技術開発と人材育成）に関する意見交換～

今回の意見交換会は、長崎大学工学部の高橋先生を座長に地方都市における技術開発、人材育成、地域の活性化について議論がなされました。長崎県港湾漁港建設業協会の松永氏から、長崎県における港湾建設・維持の重要性やそれらによる雇用の確保、産学官連携の推進についての意見が述べられました。長崎県建設業協会の谷村氏は、国民は「社会資本はしっかりしていることが当たり前」と考えており、建設業は国内の脅威に備える自衛隊みたいなものと位置づけられています。なおかつ、建設業は非効率さが故に多くの雇用・労働力を要する業種であり、雇用面での貢献が高いと言われています。長崎県土木部の田中氏の話では、地域活性化を踏まえたインフラ整備、県民の安全安心の確保に有効なインフラ整備を目指して、PDCAサイクルに組み込み事業を進めるとのことです。また、道守講座の開設や新たな研究センターの開設など、長崎大学との連携も強化しており、関係各社の協力を得ながら地域に根づいた建設業を育てる工夫をされているそうです。長崎大学の松田先生からは、「観光長崎を支える道守養成ユニット」の紹介がありました。産業基盤となる構造物の長寿命化を図り道守を養成するカリキュラムに基づいて運営されており、社会資本の整備が大切であることを訴えていきたいとのこと。中村先生は、少子高齢化、財源悪化、コスト縮減・入札方式の多様化などに視点をおき、「建設産業界の活性化、地域浮上」を目的として立ち上げた長崎県社会基盤技術研究所を紹介されました。アドバイザーの立場で参加した九地整企画部長の清水氏からは、九州でのNETIS運用状況を具体的な例を交えての紹介があり、当交流会がCPDプログラムに認定されていることによるメリットや建設技術者開発助成制度についても紹介されました。



【意見交換会の様子】



### 意見交換会参加者

#### コーディネーター：

長崎大学工学部教授

高橋 和雄氏

#### パネリスト：

長崎大学工学部教授

松田 浩氏

長崎大学工学部准教授

中村 聖三氏

九州建設業協会会長

谷村 隆三氏

(社)長崎県港湾漁港建設業協会

松永 和夫氏

長崎県土木部次長

田中 修一氏

#### アドバイザー：

九州地方整備局企画部長

清水 亨氏

#### 【事務局より】

当交流会事務局は産学官より事務局員を選出いただき協働の事務局として運営しております。九州での新技術の開発・活用・普及等へのご意見やご要望などがございましたら、お気軽に下記事務局までお寄せください。

#### 【発行者】九州建設技術交流会

官 = 九州地方整備局企画部機械施工管理官  
TEL : (092)471-6331 FAX : (092)476-3483

学 = 九州大学大学院工学研究院  
TEL : (092)802-3372 FAX : (092)802-3372

産 = (社)九州建設技術管理協会  
TEL : (092)471-0189 FAX : (092)414-0767  
E-mail : kouryukai@kyugikyoo.or.jp

事務局